

## 平成30年度新規採用予定者内定式について

平成29年10月2日  
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、平成29年10月2日（月）10時から、国立研究所において、「平成30年度新規採用予定者内定式」を行いましたのでお知らせいたします。

内定式では、経営幹部立ち会いのもと、鉄道総研理事長 熊谷則道 から新規採用予定者20名ひとりひとりに内定通知書が手渡されました。引き続き、採用予定者は理事長から激励の言葉を受けました。



写真 内定通知書を受け取る内定者

### 理事長 激励の言葉要旨

本日、この場においていただいた皆さんに内定通知をお渡しできたことを、大変うれしく思います。私とここに列席している役員の気持ちは、みなさんは鉄道総合技術研究所の仲間に加わったと思っています。三つのことをお話します。

#### 第一番目です。先端技術と基礎研究の方法を学びつつ、自分なりの研究スタイルを作ること

1964年に開業した東海道新幹線を出発点とする高速鉄道のシステムが社会にイノベーションを与えました。次の30年後の鉄道を想定すると、超高速新幹線、超電導磁気浮上式リニア新幹線、無線式列車制御などのシステムや先端技術がイノベーションのトリガーになる可能性は高く、将来の鉄道の革新に関心は尽きません。研究を進めるに際して、研究の先駆者、先輩の研究スタイルを学んできているはずです。先達の研究方法を吸収し、オリジナリティあふれる研究を実行してほしいと思います。「温故知新」の言葉通り、新しい知を生むために先達の方法をよく見る必要があります。

### 第二番目です。研究開発が社会にどのように役に立つか常に意識すること

今、私たちはデジタル革命の渦の中にいます。広範な産業分野でコンピュータテクノロジーをベースとする情報のデジタル化、I o T、ロボティクス、A I（人工知能）などのメガテクノロジーを活用して企業の成長をめざした動きが顕著です。最近の科学や工学の分野では、デジタル技術とその応用に強い関心が向けられています。皆さんは今、社会への扉の手前にいます。科学や工学での研究開発は、社会に役に立つ成果が求められます。デジタル技術もそうした社会へ貢献する成果を創ることに向かうでしょう。社会では何かを与えられるものではなく、与えることで自分という存在を見出すはずで

す。鉄道総研の役目も社会への貢献であり、特に強調したいことは鉄道輸送の安全に関する研究開発の実施です。鉄道の事業に関わる方々は「安全は輸送業務の最大の使命である」という言葉を大事にしています。私たち鉄道人は、より多くのお客様に鉄道を利用していただくために、安全を第一により鉄道をつくることにまい進することを意識してください。

### 第三番目です。良いと思った研究開発を信念と気概を持って進めること

社会を豊かにするために必要である、と思った研究開発であれば、それを強い意志をもって粘り強くすすめる気概を養ってください。逞しい研究者はその人の信念が研究の困難さを乗り越える力になるでしょう。強い意思は研究を進め得るうえで大事だと思うからです。そして、楽しんで研究ができることを期待しています。

本日、内定を受けたこの機会に3つを話しました。これから鉄道に乗った時、安全の維持について、科学者として第三者の目で各自なりに意識して下さい。これからの数カ月を是非集中して、修士論文なり博士論文を全力で仕上げてください。と思っています。

鉄道総研は皆さんの若い力を必要としています。来年の4月から、共に鉄道をよくするための研究活動に携われることを楽しみにしています。



写真 激励の言葉を贈る熊谷理事長